

# 地方民間テレビ放送局における ローカルジャーナリズムの現状 RCC 中国放送「ニュース6」を事例として

高原 千佳代

本論文は、ニュースに込められたジャーナリズム性とローカル性から、ローカルテレビニュースジャーナリズムについて考察した研究である。研究対象は、広島県の RCC 中国放送の平日夕方ニュース番組「ニュース6」であり、内容分析調査を実施した。

日本の民間テレビ放送局は、原則として、県域に置局されたローカルテレビ局である。電信、電話、ラジオ、テレビ、そしてインターネットと発展してきた情報通信メディアは、時には競争環境のなかで、また時には敵対しながら、それぞれの地位を築いてきた。現在、激変するメディア環境のなかで、各メディアはそれぞれの地位の再構築を模索している。一方向の情報発信型メディアであるテレビ放送メディアは、東京一極に集中していることから、そこから発信されるメッセージは、全国のまなざしが中心となり、地域社会に生きる人々に向けたローカルの情報を十分に伝えてはいないとの指摘が、折に触れてなされてきた。

本研究は、ローカルテレビ局が自社制作するローカルテレビニュース番組をローカルテレビニュースジャーナリズムの視点で分析することにより、ローカルテレビ報道の実相を明らかにしようと試みるものである。

第1章では、日本のテレビ放送の歴史的な背景と放送産業の観点から、取り巻く環境を確認した上で、ネットワーク系列化と、テレビジャーナリズムやローカルの番組制作に関わる基礎的な状況を概観した。

第2章では、テレビニュースとローカルジャーナリズムに関する先行研究をレビューし、その結果として、ローカルテレビ局が制作するニュース番組のジャーナリズム性とローカル性を明らかにするための、以下の研究課題を導き出した。1) ハードニュース・ソフトニュース区分による日常的

なローカルテレビジャーナリズムの報道傾向、2)ローカルニュースの外国関連報道におけるローカル性の組み込まれ方、そして 3) 研究対象である広島ローカルティを強く反映すると考えられる原爆・平和関連報道の3点を通じてローカルテレビ局であるRCC中国放送の報道姿勢を明らかにすることである。

第3章では、先行研究事例での調査方法論を参照し、調査方法の検討を行い、調査にかかわる具体的な調査手順について記述した。

第4章では、第3章で記述した調査方法論に基づいて得たデータをもとに、第2章で導いた研究課題の調査を行った結果を報告した。

(1)ハードニュースとソフトニュースの報道傾向については、番組全体ではソフト化傾向を示したことを報告した。しかし、日々の報道活動が反映される通常ニュースや企画・特集ニュースでは、圧倒的なハードニュース傾向を示し、特に、番組の報道姿勢を示す指標ともなる、企画・特集ニュースにおいては、ハードニュース傾向が強くみられた。

この背景には、ハードニュースの典型ともいえる犯罪・事件事故・裁判が多く報じられることに加えて、年間を通じて、広島ならではのローカル性を反映するトピックである原爆・平和関連報道が、通常ニュースと企画・特集ニュースで多く報じられていることがあった。加えて、地域のベンチャー・中小企業から大企業までをカバーし報道する経済報道や地域活性化に関わるハードニュースの報道は、地域社会にローカル放送局として置局しているからこそその報道活動を展開していることを表したものだ。

(2)RCC「ニュース6」では、日々報道されるニュースのうち約15パーセントが外国関連報道であり、ローカルでありながら国際性が色濃く反映されていることを報告した。

海外で発生した広島関連報道を加えると、9割以上が広島に関連する外国関連報道であり、ローカルと強く関連させたニュース選択がされる傾向がみえてきた。言及される国では、アメリカが最も多く、原爆・平和関連と結び付けたうえで、広島ローカルならではのニュース選択がされていることも特徴である。G7外相会合やオバマ大統領の広島訪問という特殊なイベントを除いても、海外政府関係者や団体の平和公園等の訪問や、エチオピアでの平和学習、アメリカでのメインキャスターの取材活動など、幅広い地域が取り上げられた。また、特徴的な結果が出た原爆・平和関連報道に加えて、社会のグローバル化の進展が反映されたニュースも存在する。人の往来や経済活動のグローバル化に起因するニュースもみられた。

(3)原爆・平和関連報道に焦点をあててみると、海外とヒロシマの枠組みから伝えられるものが最も多く、これらはG7とオバマ大統領訪問を中心とした内容となっていた。これらを除けば、海外要人や組織などの平和公園・平和記念資料館の訪問が中心となり、原爆・平和に関わる問題

を、世界の普遍的な問題として、日常的に報道していることを示すものと言えそうである。また、記憶の継承に関わるものが、重要な課題として捉えられていることもみえてきた。平和教育や、原爆をテーマにした漫画や劇、沖縄の戦争体験や東日本大震災の被災体験の記憶の継承との共通点を見出して報じられるニュースもみられた。RCC「ニュース 6」の原爆・平和関連報道は、被爆地ヒロシマのローカルに根差した報道が中心であるが、アメリカとの関係性、多様なスタンスの被爆者の証言を中心に構成されるニュースの報道の多様性が、原爆・平和関連の課題を多面的にみることを可能にしている。

以上の結果を踏まえて結論では、RCC「ニュース 6」による、広島ならではの、特に被爆地ならではの、地域ならではの報道活動に取り組み、そのニュース価値を重視していることを日々示しているローカルジャーナリズムの現状から、放送ジャーナリズムのローカル性について考察した。ローカルに根差した取材とは、決して放送エリア内での取材をするということにとどまらず、国外を含めて、より広範な地域での取材活動も、ローカル性を反映したニュースになると指摘できる。RCC「ニュース 6」の企画・特集ニュースには、沖縄での戦争体験にかかわる取材やアメリカでの原爆関連の取材などがみられた。ローカルニュースは、地域社会の健全な発展に欠かせない。強いローカル意識を背景に取材活動が展開され、それを視聴者に届ける RCC 中国放送のローカルジャーナリズムは、ローカル報道のあり方をさらに深化させてゆくための、基本モデルになりうると、本論文を締めくくった。